

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	56	学 校 名	掛川東高校	校 長 名	樽松一樹
------	----	-------	-------	-------	------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	自律と自立の力を育成するため、高い規範意識と、人としての高い品性を涵養する	・「自律と自立」の意味について考え、行動することができた」と答える生徒の割合 80%以上	99.0%	A	【全教職員・生徒課】 ・校則について考える LHR、自律と自立について考える LHR の定期開催によって振り返る時間が増え成果として表れている。
		・「気持ちのよい挨拶、制服の端正な着こなしができた」を肯定する生徒 95%以上	挨拶 95.8% 着こなし 99.0%		・毎年入れ替わる生徒に向けて徹底して指導を続けていく必要がある。また、心得や校則の見直しが先輩たちの努力によって成し遂げられていることを理解させなければいけない。
		・「ルールやモラルの意義について考え、主体的にルールやモラル守ることができた」と答える生徒の割合 80%以上	99.3%	A	【生徒課・保健相談課】 ・規範意識を高く持つ生徒が増えている。
		・「次の予定を考え、時間を見て行動することができた」と答える生徒の割合 80%以上	98.0%	A	【全教職員・生徒課】 ・個々に時間を見る習慣がついている。ノーチャイムの効果も出ている。
		・教員の指導前にポートフォリオが作れた生徒 50%以上	全体 72.3% 1年 60.8% 2年 74.5% 3年 82.9%	A	【学年・担任】 1年部 タイミングを見て声掛けすることで、自主的な作成を促すことができた。 2年部 昨年よりできている生徒が増えている。 3年部 低学年からの定期的な指導が功を奏し、高作成率を維持することができた。

イ	主体的に学ぶ習慣を確立し、社会の変化に柔軟に対応できる教養を身につける	・他者の授業見学を行い、自らの授業改善を行った教員 80%以上	87.0%	A	【全教員・教務課】 ・校内研修と授業公開週間の周知と参加の促進ができた。
		・「週5日以上自主学習に取り組めた」とする生徒 60%以上	71.8%		・学習時間調査を活用し、引き続き正副担任や教科担当、部活動顧問などによる声掛けと指導を続けていく
		・授業がわかり、学力が伸びていると感じる生徒 75%以上	91.8%		・授業改善と関連しているので、活性化された研修の質を保つ。 ・生徒の授業に取り組む姿勢が良いので、教員側も授業をしやすい。お互いの相乗効果もある。
		・学習方法、学び方の改善を生徒に提供した教員 80%以上	91.3%	A	【教務課】 ・教員間で授業見学に行きやすく、指導法の交換などがしやすい環境が結果に表れている。
		・「情報セキュリティーを意識した1人1台端末等の活用を心掛けた」と答える生徒 90%以上	99.0%	A	【図書情報課】 ・端末の使用時に注意して利用している生徒がほとんどである。端末の保管方法にも気をつけさせたい。
		・ICTを活用する授業を行う教員 90%以上	91.3%	A	【全教員・図書情報課】 ・多くの先生が、iPadやプロジェクトを利用した授業を展開している。
		・総合的な探究の時間について、年度内に計画を実行していく中で、内容についてその都度検証し、必要な見直しをする。	数値による評価無し	A	【総合的な探究の時間推進委員会】 ・「掛東生の声聞いてみませんか」を通じて、新たに7つの地元企業等との連携プロジェクトを開始するほか、「掛川SDGsプラットフォーム」に加盟し、260を超える行政・企業・団体等とパートナーシップを締結するなど、外部連携を推進。 ・生徒が探究学習等の成果を地域に発信、プレゼンする「出張！掛東生の声聞いてみませんか」を開始するほか、県主催の「高校生探

様式第3号

					究フェスタ」及び「SDGs スクールアワード」、掛川市主催の「かけがわ SDGs フェスタ」への生徒の参加を促し、生徒の探究学習における地域への発信を促進。 ・探究成果発表会について、行政、民間企業、NPO 法人、有識者をアドバイザーとして招聘するほか、近隣中学校、高等学校、連携プロジェクト実施企業、保護者に公開して実施し、本校探究学習の外部評価を実施。 ・県内先進校4校の視察を行い、3年間を見据えた指導計画を再検討。
ウ	社会の中で働く自分の理想像を見つけ、自己の可能性に挑戦する進路を探究する	・「主体的に将来を考えた」と回答した生徒 100%	92.8%	A	【進路課】 ・学年に応じた進路意識の高まりをサポートできた。 ・3年生の担任は複数回の3者面談を実施し、手厚い指導を行った。
		・「本校の進路指導に満足している」生徒が80%以上	93.1%		
		・進路相談、小論文、面接指導等に関わる教員 100%	95.7%	A	【全教員・進路課】 ・小論文・面接指導を職員全体で分担し指導できた。
		・各種検定や資格取得に挑戦した生徒 50%以上	55.2%	A	【教科・進路課】 ・英語検定の会場校から外れたことが影響したと考えられるが、目標の数値には到達できた。
エ	集団の中で切磋琢磨し、自他を認め合えるたくましい心身と豊かな感性を育成する	・「学校生活に満足している」とする生徒 90%以上	96.5%	A	【全教職員・生徒課】 ・心理的安全性が確保された生徒一人一人が活躍できる環境づくりの推進に向け、生徒一人一人の心理的安全性の現状を把握するほか、本校における心理的安全性向上に資する取組例をとりまとめ、学校経営、ホームルーム経営の参考資料とした。
		・「学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動、部活動のいずれかに積極的に参加できた」と答える生徒の割合 80%以上	97.0%		

様式第3号

		・授業を利用して外部の専門家を招いての講演会を年間2回以上開催し、人権意識の向上を図る。	数値による評価無し	A	【保健相談課】 ・法務局に依頼し、授業内で実施した。 【学年・担任】 1年部 ・教科毎の授業で専門講師を呼ぶことはなかったが、薬学講座、保健講座など学年単位で講演を聴講した。 2年部 ・修学旅行先で、平和教育に関する講演を聴講した。 3年部 ・政治経済の授業において、法務局職員を呼び、人権教育を行った。
		・毎月1冊以上読書をした生徒および教員80%以上	生徒 71.0% 教員 69.6%	B	【図書情報課】 ・昨年度から少し増加した。生徒、教員ともに読書習慣を身につけさせたい。
		・「日常の生活の中で、各自の役割を果たし、人のために行動できた」とする生徒80%以上	97.0%	A	【生徒課】 ・生徒一人ひとりの意識が向上し、他者に対する思いやりや心配りが以前よりもできるようになった。
オ	学校外との連携を大切にし、安心・安全で信頼される学校改善を行う	・「進んでボランティア活動に参加できた」とする生徒50%	63.9%	A	【生徒課】（関係部活動） ・コロナ禍からの脱却により年々増加傾向にある。
		・PTA行事等への参加率50%以上	PTA 総会出席人数 338/618 54.7%	A	【全教職員】（総務課） ・PTA総会参加者は前年度より、7.7%増加した。その他の学校行事への参加は概ね達成できた。
		・ホームページ等で情報発信を行った教職員75%以上	82.6%	A	【全教職員】 ・ホームページやエックス、Instagram、Cラーニング、探Qラボ shizuoka 等、様々なツールを活用し、学習指導、進路指導、探究学習、生徒会活動、部活動等の情報発信を積極的に行った。 ・職員リレー形式の情報発信を採用し、発信する情報量の増加と情報の偏りを少なくした。

様式第 3 号

				・エックスや Instagram はフォロワー数が倍増した。
	・「掛川東高校の教育に満足している」と回答の保護者 75%以上	92.2%	A	【全教職員】 生徒、保護者だけでなく、中学生や地域からの評価や期待も高まっていると感じている。
	・保護者及び生徒のＣ－ラーニングの登録率 100%、利用率 90%	生徒利用率 90.3% 保護者利用率 99.7%	B	【図書情報課】 ・年度当初の 1 か月以内に登録率を 100%としたい。
	・校外の個人・団体と関連する教育活動をした教員 50%以上	52.2%	A	【全教職員】（進路課） ・総合的な探究の時間に、生徒が掛川市内のコミュニティ・レジデンスを訪れ、大人たちに探究学習の相談を行う「ポートカケガワに相談してみませんか」や、生徒が大学の先生に探究学習のオンライン相談を行う「大学の先生に相談してみませんか」を開始し、探究学習に対する外部相談体制を確立した。 ・総合的な探究の時間における校外学習の手続き及び生徒が企業等に問合せ等をする場合の対応についてのルールを整備した。 ・インターネット上の真偽を確かめるファクトチェックについて、情報モラル教室を行った。 ・多くの教員が新規あるいは継続的に、教科の授業内で外部の講師を招いた出張授業を行った。
	・「学校に信頼できる先生がいる」とする生徒 80%以上	90.1%	A	【保健相談課】 ・昨年度は 86%であったので、教職員と生徒の関係がより良いものになっているとこの結果から想定される。

様式第3号

		・教職員の事故発生件数ゼロ ・施設に関する事故発生件数ゼロ ・監査等の指示・指摘事項ゼロ	事故発生件数1件（交通事故） 施設に関する事故発生件数ゼロ 監 査 等 の 指 示 ・ 指 摘 事 項 ゼロ	B	【管理職】 ・職員会議等を活用した、月例のコンプライアンス研修を実施した。 ・県教委作成のコンプライアンス通信、人権教育の手引を活用するほか、県警作成の動画教材や、オンラインクイズ形式のオリジナル啓発教材を作成して実施した。 【事務室】 ・校内の危険個所や改善要望を聴取するため報告シートを作成し改善が必要な個所を特定、計画的に修繕等を実施し、施設に関する事故を防止した。 ・常に内部統制を効かせ協力し合い、誤りのない事務処理ができた。
カ	生徒、教職員が、活力ある学校生活を送ることができる環境を整備する。	・設定された時間内での会議 80%以上	数値による評価無し	A	【管理職・各課長】 ・職員会議、運営委員会は、掲示板やチャット等を利用した連絡等への切り替えや、分かりやすい資料の作成等により、すべて設定時間内で終了した。
		・授業等の始業・終業、遅刻者ゼロを目指す。	生徒 96.5% 教員 95.7%	A	【管理職・教務課】 ・継続した呼びかけによって、終業時間の延長は改善された。
		・「下校時刻を守ることができた」と答える生徒の割合 80%以上	97.0%	A	【生徒課】 ・成果目標を大幅に超えて達成できた。引き続き下校時刻を守れるような働きかけをしていきたい。
		・週1回定時退勤できた教職員 70%以上	69.6%	B	【全職員】 ・長時間勤務者の推移を見える化し、校務の精選、業務プロセスの改善、積極的なICT活用により総業務量の縮減に取り組むほか、各教職員の業務量・時間外在校時間の状況等に応じた

様式第 3 号

					教職員の業務の平準化及び相互のフォローアップを推進した。 ・月 45 時間超勤務者の割合は、8 月を除き前年度より減少、月 80 時間超勤務者の割合は、4 月と 12 月を除き前年度より減少した。
		・「部活動ガイドラインの趣旨を踏まえて活動できた」と答える教員の割合 100% ・負担感、多忙感が改善されたと感じる教職員 50%	95.7% 56.5%	A	【全職員】（管理職） ・部活動の在り方について継続した検討が必要であると感じている。 ・教職員一人一人の実情に応じた定時退勤日を設定した。 ・完全退勤時刻を過ぎた午後 9 時以降の業務を行った教職員には積極的に声をかけるとともに、可能な内容については職員間で業務のフォローアップを行った。 ・心理的安全性が確保された教職員一人一人が活躍できる環境づくりの推進に向け、職員室における心理的安全性の現状を把握し、学校経営の参考資料とした。